

サッカー2級審判員春昇級者の紹介

＝ ハーフタイム ＝
東京 F A 審判委員会
第 5 1 号 (2018 年 11 月)

2018 年度春の関東 2 級昇級審査が行われ、新たに 5 名の 2 級審判員の皆様が生れました。合格された皆様の喜びの声をお届けします。

2 級審判員 石井 啓一郎 氏



「主審は自信がないので、副審でいいですか？」そんなある日の少年サッカー場での会話。このたび 2018 年度第 1 回サッカー 2 級審判に昇級させていただきました石井啓一郎です。このような機会を与えていただき、本当に感謝の気持ちしかございません。いろいろな方々に助けられ、ご指導を受け、たくさんの割当てをもらい、チャンスをいただき、結果を出すことができました。

子供達が地域のサッカーチームに入団し嫌々お父さん審判から始めましたが、今ではサッカーの魅力にとりつかれ、毎週末の試合に向け日夜サッカーのことばかり考えるようになってしまいました。目標は達成しましたがゴールではありません。新たなスタートラインに立ち日本サッカーのために精進いたしますので、今後ともよろしくお願いたします。

2 級審判員 藤山 哲郎 氏



2 級審判員に昇級させていただいた藤山哲郎です。

ユース審判の時から多くの方々のご指導により昇級できたことに感謝いたします。これからも常に向上心を持ち、自分自身も魅せられたサッカーの魅力を多くの人に伝えられるような審判活動をしていきたいと思ます。

また、今後は自身を育てていただいた東京都ならびに地元地域のサッカーの発展に少しでも貢献していきたいと思ますので、今後ともよろしくお願いたします。

2 級審判員 光田 圭佑 氏



この度、2018 年度春に昇級しました光田圭佑と申します。

審判員として一歩進めたのは、東京都サッカー協会の皆様をはじめ、フィールドで共にした皆様、所属大学の体育会サッカー部の仲間含め多くの方々のお陰だと実感しております。

今後は 2 級審判員として活動を始めますがやることは何ら変わりません。自分が「選手の為」に出来ることを精一杯追求し続けます。至らぬ点や、未熟な点が多い私ですが、成長を求め精進してまいりますので引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願致します。

2 級審判員 横田 秀香 氏



2018 年度春に昇級いたしました、横田秀香です。私が昇級できたのも、日頃ご指導してくださっている皆さまのおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。私が審判を始めたきっかけは、小学生の頃、金色のワッペンをつけた女性審判員の凛々しさに憧れたことで、審判員を目指しました。

今度は、私自身も誰かに審判員の魅力伝えられるように、より一層気を引き締めて参ります。これからも昇級したことに満足せず、初心を忘れずに日々成長し続けたいと思ますので、ご指導のほどよろしくお願致します。

2 級審判員 横山 歩夢 氏



初めまして。この度 S 2 級に昇級いたしました横山歩夢（よこやまあゆむ）と申します。私が審判ライセンスの昇級を志した理由は、選手がより高いレベルで存分に力を発揮できる環境を整備し、支援したいと考えたのが元となっております。

自分でも選手、指導を続けていることもあり、プレーヤーズファーストの理念を常に持ち続けています。審判員としてもその理念を忘れることなく、“最高の試合”を実現できるよう精進していきます。どうぞよろしくお願いたします。

2018年8月21日～24日の4日間にて東京ソウル定期戦が韓国ソウルにて行われました。

東京選抜の帯同審判員として、サッカー2級審判員の斎藤雅也氏のレポートをお届けします！！

現地では主審、副審を1試合ずつ、計2試合を担当しました。自分自身、初めて海外で審判をするにあたり感じたことや、苦勞したことは数多くありました。担当する試合において私以外すべて韓国の審判員でした。もともと英語が苦手な私にとっては、コミュニケーションをとることに苦勞しました。試合に入ってしまうと、笛やボディランゲージなどで、選手にメッセージを伝える方法がありますが、フィールド外での、審判団や運営の方とのコミュニケーションに言語能力は必須で、自分の語学力の低さを痛感しました。結局は片言の英語で何とか意思疎通を図ることができましたが、少し悔しい経験となりました。



主審を務めたU-15の試合では、特に難しく意識せずに、日本でやっていることを、そのままやってみることにしました。ただ一つ意識したことは、選手のフラストレーションを溜めないことです。前日に副審を務めたU-18の試合では、自分のプレーができないイライラなのか、勝ちにこだわる姿勢からなのか、試合状況によって、韓国の選手達のプレーやファウルの質が変わっていくことを感じました。怪我をしてしまった東京の選手もいたため、自分が主審を担当する試合でそうならないよう気を付けました。その為に、笛を吹いた後、選手は判定を受け入れているのか？それとも受け入れているのか？受け入れていなかった場合、どんなリアクションになるのかを、いつも以上に観察しました。U-15の選手ということもあり、大きなリアクションはありませんでしたが、態度やジェスチャーからこれは不満に思っているだろうな、もしくは、これは判定に本人も納得しているのか、特に声をかける必要はないな、などリアクションから得られるものも多く、どの試合でも、選手の気持ちを感じる為に続けていこうと思いました。また試合中にソウルの選手達には、簡単な韓国語で声がけをしてみました。「大丈夫？」「ありがとう」「ごめんなさい」など本当に簡単な単語ではありますが、声掛けした時の反応は良く、自分自身も意思疎通ができたことを嬉しく感じました。

現地の審判員からはハーフタイムに、フィジカルコンタクトの見極めはGoodだと言われました。韓国の選手のボールを奪いに行く際のチャレンジの強さや、タイミングは少し日本との違いを感じましたが、ボールが先なのか、同時なのか、接触部位は何処と何処なのか、など考慮する観点は日本と殆ど同じでした。また、期間中にはホテルで行われた、U-15東京トレセンのチームミーティングにも参加させていただきました。トレセンスタッフから選手たちは何を求められているのか、試合では何をコンセプトにしているのか、などテクニカルな面からの視点を知ることができ、やりたいサッカーや、選手個々のプレーを最大限に発揮させてあげる為に、審判員として何ができるかを考える良い機会となりました。

それだけではなく、4日間の定期戦を通じて、選手、テクニカルスタッフ、メディカル、運営、通訳の方などたくさんの方々とコミュニケーションがとることができ、様々な視点から改めてサッカーを考えることができた本当に良い機会となりました。

最後になりますが、この定期戦に参加するにあたり、平日にも関わらず、快く送り出してくださいました職場の皆様、現地でサポートしていただきましたソウル特別市サッカー協会の皆様、ご推薦いただきました東京都サッカー協会の皆様、審判委員会の皆様に感謝申し上げます。この定期戦で得たものを、今後の試合でより良いパフォーマンスに繋げ、大きく成長できるよう、今まで以上にしっかりと審判活動に取り組んでいきたいと思っております。



2018年度 審判交流プログラム実施報告



審判委員会では2018年8月2日～5日の4日間、「審判交流プログラム2018」を行いました。これは、山形県サッカー協会と海外の香港サッカー審判協会、そして東京都サッカー協会審判委員会が毎年行っている研修会で、今回で27回目となり、今年度は山形での開催となりました。

東京からは2級審判員7名および3級審判員1名ほか、計12名の審判員・審判インストラクターが参加し、各協会総勢で80名にも上る規模の事業です。

今回の交流プログラムのメインイベントである親善試合(東京は山形と合同チームにて参加)を行い、これを用いた審判実技研修を行いました。前後半で審判員を分けて行われたこの研修では東京からは、前半の主審を2級審判員の佐山志功さんが務めました。

(両副審と第四審判は山形県サッカー協会が担当。)

後半の4名の審判団は香港サッカー審判協会が担当されました。

主審を務めた佐山さんはプログラムへの参加が初めてという事もあり、「交流試合とはいえ、現役や元国際審判員の方々がいらっしやると聞いており試合前は緊張しました。」と話されておりましたが、思い切ったレフェリングで正しい判定によりゲームをスムーズに運営されておられました。

試合後は「すごく楽しい雰囲気です。私自身も楽しかったです。

来年も是非参加させていただきます。」とのコメントも頂戴し、今後の審判活動の力になったかと思えます。また、佐山さんと同じく初参加の3級審判員の江野本さんは、プログラムへの参加に関して以下のように感想を述べてくださいました。

「昨年からは3級アクティブ全員に任意参加可能になったフィジカルトレセンで審判交流プログラムの存在は認識していたものの、審判交流って何?なぜ香港?分からないことだらけで、参加には二の足を踏んでいました。フィジカルトレセンでいつもお世話になっている2級審判員でインストラクターでもある佐野氏からのお勧めもあり、何をやるかも分からないままとりあえず参加してみることにしました。参加して大変驚き、またこの会の素晴らしさに感動しました!

- ・国際審判員を含む香港審判団とその家族のパワー
- ・山形県協会の皆様のおもてなし
- ・東京都協会の役員の皆様や2級審判員の方々との交流

Jリーグ開幕前の1992年始まり、今まで脈々と続いてきたこのプログラムは、私のような初めて参加の者も快く受け入れて下さり楽しかったです。次回以降も自分が審判活動を続ける限り、積極的に参加させて頂く予定です。来年の香港が大変楽しみです!」



また今回の審判交流プログラムでは、最終日のフェアウェルパーティにおいて東京都所属の国際副審である山内宏志氏が参加して下さり、2018FIFAワールドカップロシアの参加報告のお話をいただきました。

山内氏からは「この審判交流プログラムでの経験がいまも活かしている。」とお話をいただき、東京だけでなく、山形、香港の若い審判員に多くの刺激を与えてくださいました。この審判交流プログラムの存在意義を再確認させていただき貴重な報告会の場となりました。次回は、2019年11月頃香港において、第28回の審判交流プログラム開催予定となっております。引き続き、国際交流だけでなく、サッカー文化の違いも肌で感じ、審判技術の向上に繋げ、今後担当するゲームにてその力を大いに発揮出来ればと思います。

